

法学部 教授 工藤裕子

2021年アジア行政学会年次大会にて、Akira Nakamura Award (Best Paper Award) を受賞

法学部教授 工藤裕子が2021年10月7～8日に開催されたアジア行政学会 (Asia Association for Public Administration) において、Best Paper Award にあたる Akira Nakamura Award を受賞しました。

今回受賞した研究の内容は以下の通り。

受賞タイトル : COVID-19 Outbreak as Digital Laboratory and Citizens' Co-production: Considering accountability and trust

発表概要 : 新型コロナウイルス感染症対策として各国で活用されてきた接触アプリのうち、韓国、台湾、日本の接触確認アプリについて、これらのデジタル技術が公益に資する可能性と個人情報保護との関係に注目し、プライバシーおよび個人情報の保護、データ使用に関する法的根拠の有無とその背景、政府のアカウントビリティと信頼、市民社会の参加・協働という視点から分析した結果を発表しました。

経済学部 教授 伊藤 篤

一般社団法人電子情報通信学会の活動功労賞を受賞

経済学部教授 伊藤篤が2021年9月15日付で一般社団法人電子情報通信学会の活動功労賞を受賞しました。ネットワークソフトウェア研究会 (NWS) 運営委員長として、研究会運営に大きく貢献されたことが評価されたものです。

名誉教授 宮村鐵夫

令和3年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞

名誉教授 宮村鐵夫が令和3年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。この賞は、「国民安全の日」の創設についての趣旨を踏まえ、国民の安全確保について顕著な功績をあげた個人や団体を表彰する大変名誉な賞です。

宮村名誉教授は、長期にわたり、消費経済審議会製品安全部長および産業構造審議会製品安全小委員会の委員長を務め、長期使用製品安全点検制度創設に貢献したこと、また、講演や業界誌を通じて、国民や企業に向けて製品の安全の重要性について積極的な周知活動に努めたことが評価され、本賞を受賞しました。

理工学部 教授 西田治文

2021年日本進化学会賞および公益信託進化学振興木村資生基金「木村資生記念学術賞(木村賞)」を受賞

理工学部教授 西田治文が2021年度「日本進化学会賞」および公益信託進化学振興木村資生基金「木村資生(もとお)記念学術賞(木村賞)」を受賞しました。「日本進化学会賞」は進化学や関連する分野において学術上非常に重要な貢献をした者に世界的な業績を記念して授与されます。

また、「日本進化学会賞」受賞者は公益信託進化学振興木村資生基金の「木村資生(もとお)記念学術賞(木村賞)」にも推薦されます。

西田教授は、陸上植物進化について、外部形態のみならず、発生、生理、共生現象について中間段階化石に基づいて解明する新分野を開拓し、なかでも被子植物への進化について数々の驚くべき発見をし、国際的にも業績を残していることがたたえられ両賞を受賞いたしました。

理工学部 教授 小林一哉

「国際電波科学連合会長賞」を受賞

理工学部教授 小林一哉が、国際会議「第34回国際電波科学連合総会」(URSI GASS 2021、2021年8月28日～9月4日にイタリア・ローマで開催)において、国際電波科学連合会長賞 (URSI President's Award) を受賞しました。この学術賞は、URSI (国際電波科学連合) の活動と使命に対する顕著な貢献を称えるもので、URSI 総会から総会までの3年間で1名選考して表彰されます。小林教授は、アジア・太平洋電波科学会議 (AP-RASC) を URSI フラグシップ会議の一つとして発足させ、これを組織化し確立させたリーダーシップと不断の努力が高く評価され、このたび国際電波科学連合会長賞を受賞しました。

理工学部 教授 香取眞理

「2021年度日本数学会解析学賞」を受賞

理工学部教授 香取眞理が日本数学会「2021年度日本数学会解析学賞」を受賞しました。

業績題目 : 統計力学と関連する無限粒子系の研究

英文題目 : 受賞理由などの詳しい情報は、11月発行の「数学通信」(日本数学会の会員誌上)にて公示予定です。

授賞式は2022年3月の日本数学会年会にて開催予定です。

理工学部 教授 牧野光則

UNESCO も含む

国際プロジェクトにワーキンググループメンバーとして参画

理工学部教授 牧野光則が、国際組織 WFEO (The World Federation of Engineering Organizations、世界工学団体連盟) が実施したプロジェクトに、日本を代表するワーキンググループメンバーとして参画しました。

世界工学団体連盟(WFEO)は、エンジニアリング(工学)専門家のための国際組織です。ユネスコの後援の下に1968年に設立されました。

WFEOの委員会のひとつである CEIE (工学教育委員会 Committee on Education in Engineering) は、2019-2021年に GAPC コンサルテーションというプロジェクトを実施しました。プロジェクトでは、UNESCO、WFEO、IEAの合同ワーキンググループにてコンサルテーションが進みました。牧野教授は、IEA (International Engineering Alliance、国際エンジニアリング連合) のワーキンググループ4か国(日本、イギリス、オーストラリア、トルコ)の中の、日本の代表メンバーとして参画しました。

GAPC コンサルテーションでは、IEA がこれまでに策定していた文書(工学系高等教育の参考指標である「卒業生としての知識・能力(GA)」とエンジニアリング系資格の参考指標である「専門職としての知識・能力(PC)」の改定案を検討しました。国連SDGs(持続可能な開発目標)や、D&I (Diversity & Inclusion) の概念も反映し、2021年6月21日 IEA 年次総会にて承認されたこの改定案は、IEA 加盟各団体の参考指標として今後用いられます。

牧野教授は、IEA 加盟団体である WA (Washington Accord) の正規メンバーである JABEE (日本技術者教育認定機構) で、基準委員長ならびに理事(電子情報通信学会推薦)などを務めています。

牧野教授は、JABEEにて当該文書の取り扱いに慣れてきたこと、及び、JICA の IABEE (インドネシア技術者教育認定機構) 設立プロジェクトに外部専門家として参加し、各種ルール作りを支援したこと、などの実績により、ワーキンググループにおいて日本を代表するメンバーとして参画しました。牧野教授は、今回の成果を JABEE による国内教育プログラムの認定審査に導入することに引き続き携わります。

このような牧野教授の高等教育の質保証に関する取り組みは本学の段階別コンピテンシー育成システムにも生かされている他、本学の FD 推進委員としての活動にも反映されています。

理工学部 教授 小松晃之

タンパク質が国際宇宙ステーション「きぼう」日本実験棟に打ち上げられました

理工学部教授 小松晃之は、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と共同で「宇宙空間における高品質タンパク質結晶生成実験」を実施しています。10月5日 午後5時55分(日本時間)、理工学研究科博士2年 岡本 航さん、同 修士2年 高田 諒也さん、同 修士1年 臼井朝音さんが合成・精製した2種類のタンパク質が、バイコノール宇宙基地からソユーズ MS-19宇宙船(ロシア)で国際宇宙ステーション (ISS)へ打ち上げられました。10月6日より「きぼう」日本実験棟で星出彰彦 宇宙飛行士による船内実験が開始されています。得られた結晶は12月末に地上に戻る予定です。COVID-19の影響で約2年ぶりのロシア打ち上げ実験となりました。

総合政策学部 教授 泉川泰博

米国政治科学学会 (APSA) の部門別最優秀論文賞を受賞

総合政策学部教授 泉川泰博の論文 "Network Connections and the Emergence of the Hub-and-Spokes Alliance System in East Asia" が、American Political Science Association (米国政治科学学会、以下 APSA) の International History and Politics Section (国際史と政治部会、以下 IHAP) より、2020年度の最優秀論文賞 (The Outstanding Article Award) を授与されました。APSA は、北米で最も権威ある政治学全体に対する学会であり、IHAP は、APSA に属する数多くの部会の一つです。

研究開発機構 機構教授 石川幹子

支援活動を行った日本橋兜町の坂本町公園再生に、中央区・山本泰人区長より感謝状が贈られました

研究開発機構機構教授 石川幹子が、かねてより地域支援活動をしておりました日本橋兜町の坂本町公園再生事業について、同公園が2021年9月1日にオープンしました。石川機構教授の専門分野であるランドスケープのうち、とりわけ都心部の水環境ある公園整備については、都市政策・多様なステークホルダーなど複雑な要因が積層しているため、多くの地域では、実現に至る道は厳しいものがあります。今回は、中央大学の学生が参加し、こどもワークショップや地域での検討会を重ね、行政・町会・企業の意見を丹念にまとめ、合意形成を行うことができました。これにより、日本橋兜町という金融街の中心に森・丘・小川が流れる自然環境が誕生し、現在はトンボが群舞しております。